

Q9 この1週間のあなたのからだや心の状態についてお聞きします。

下の20の文章を読んで下さい。各々のことがらについて

◎もしこの1週間で全くないか、あったとしても1日も続かない場合は「1」

◎週のうち1～2日なら「2」

◎週のうち3～4日なら「3」

◎週のうち5日以上なら「4」

のところを○でかこんで下さい。

		この1週間のうちで			
		ない	1-2日	3-4日	5日以上
1	普段は何でもないことがわずらわしい。	1	2	3	4
2	食べたくない。食欲が落ちた。	1	2	3	4
3	家族や友人にはげましてもらっても、気分が晴れない。	1	2	3	4
4	他の人と同じ程度には、能力があると思う。	1	2	3	4
5	物事に集中できない。	1	2	3	4
6	ゆううつだ。	1	2	3	4
7	何をするのも面倒だ。	1	2	3	4
8	これから先のことについて積極的に考えることができる。	1	2	3	4
9	過去のことにについてくよくよ考える。	1	2	3	4
10	何か恐ろしい気持ちがある。	1	2	3	4
11	なかなか眠れない。	1	2	3	4
12	生活について不満なくすごせる。	1	2	3	4
13	ふだんより口数が少ない。口が重い。	1	2	3	4
14	一人ぼっちでさびしい。	1	2	3	4
15	皆がよそよそしいと思う。	1	2	3	4
16	毎日が楽しい。	1	2	3	4
17	急に泣き出すことがある。	1	2	3	4
18	悲しいと感じる。	1	2	3	4
19	皆が自分をきらっていると感じる。	1	2	3	4
20	仕事が手につかない。	1	2	3	4

Q10 あなたと妻との関係についてお伺いします。以下に、日ごろ、妻との関係について、あなたがもつかもしれないさまざまな気持ちや態度を並べてあります。それぞれについて、日ごろのあなたの気持ちや態度にどのくらいあてはまるかを教えてください。「1. ほとんどあてはまらない」、「2. どちらかといえばあてはまらない」、「3. どちらかといえばあてはまる」、「4. かなりあてはまる」のうち、最も該当すると思うもの一つに○をつけてください。あまり考えすぎると決められなくなりますから、だいたいの感じで、できるだけすばやく判断してください。

	あては まら ない	ほと んど	い ば ど ち ら か と い え ば あ て は ま ら な い	ど ち ら か と い え ば あ て は ま る	あ て は ま る か な り
1) 私たちは、カップルとして申し分のない生活を送っている。	1		2	3	4
2) 私と妻の関係は、ひじょうに安定している。	1		2	3	4
3) 私たちのカップル関係は、強固である。	1		2	3	4
4) 妻との関係によって、私は幸福である。	1		2	3	4
5) 私は、まるで自分と妻が同じチームの一員のようにあると、ほんとうに感じている。	1		2	3	4
6) 私は、妻との関係のあらゆるものを思い浮かべると、幸福だと思う。	1		2	3	4

Q11 診断の前と比較して、妻との人間関係全体に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

- 1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.わからない

Q12 診断の前と比較して、妻との性生活に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

- 1.良くなった 2.変わらない 3.悪くなった 4.わからない  
5.診断前から性生活がなかった

Q13 以下は、あなたと妻との関係についての質問です。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう は 思わない	まったく そう は 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 妻がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

Q14 以下は、あなたと妻以外の家族との関係についての質問です。それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう は 思わない	まったく そう は 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 家族がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

Q 15 以下は、あなたと友人との関係についての質問です。それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に 思う	まあ 思う	あまり 思わない	まったく 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 友人がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

Q 16 妻の病気と関連して、あなた自身の体調変化はありましたか。

これまでに経験した症状にいくつでも○をつけてください。

1. 不眠    2. 食欲の低下    3. イライラ感    4. 将来への漠然とした不安  
 5. 仕事の能率低下    6. 気分の落ち込み    7. 性欲の低下    8. 頭痛・めまい  
 9. 肩こり    10 その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

Q 17 上記のような体調の変化や心配事を誰かに相談しましたか。

1. 相談した → 相談相手は？いくつでも○をつけてください。  
 a. 家族    b. 親戚    c. 友人    d. 職場関係者    e. 妻の担当医/看護師  
 f. ほかの医療者    g. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

2. 誰にも相談しなかった

理由
----

Q 18 現在おいくつですか。 \_\_\_\_\_ 歳





「病気と暮らしについてのアンケート」  
結果報告書



2011 年 8 月

平成 23 年 8 月

平成 23 年 2 月～3 月にかけて実施いたしました「病気と暮らしについてのアンケート調査」の折には、ご協力をたまわりまして誠にありがとうございました。このたび、集計結果がまとまりましたのでご報告申し上げます。

今回の調査結果は、さらなる分析を経て、国内外の学会や学術雑誌で発表していく予定です。研究チーム一同、この結果を、ぜひ今後のよりよいケアのために生かしていきたいと考えております。

ご協力くださいました皆様に改めて御礼申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

#### 研究チームメンバー

獨協医科大学公衆衛生学講座 高橋 都, 武藤孝司  
獨協医科大学越谷病院第一外科学 多賀谷信美  
獨協医科大学病院第一外科学 円谷美也子  
東京大学大学院医学系研究科 甲斐一郎

本研究は、厚生労働省がん臨床研究事業(H22 - がん臨床 - 一般 - 008)の助成を受けて行われました。

本報告書内の数値は今後の詳細な分析によって変わる可能性がありますので、引用はお控えください

## 1. 調査の概要

### 1.1 目的

- 1) 乳がん治療を受ける女性（以下本人）の暮らしの状況（心身健康度、家族関係、就労状況、お子さんへの病気の伝え方など）を明らかにすること。
- 2) 本人の夫の暮らしの状況（心身健康度、家族関係など）を明らかにすること。

### 1.2 調査対象

獨協医科大学病院第一外科・第二外科の乳がん術後経過観察外来を受診した女性患者さまで、以下の条件に該当する方に調査へのご協力をお願いしました。

- ① 確定診断後一ヶ月以上経過した方
- ② 著しく心理的に不安定ではないと主治医が判断した方

夫がおられる場合、ご本人から夫の方に調査票をお渡しいただきました。

### 1.3 調査方法

調査期間	平成 23 年 2 月～3 月
調査方法	無記名自記式アンケート（外来配布・郵送回収）

### 1.4 調査項目

#### <本人>

- 属性：年齢，診断後経過期間，最終学歴，月経の状況，婚姻状況，結婚後経過期間，子どもの有無，就労状況，信仰の有無
- 臨床的背景：診断後経過期間，治療内容（術式・再建術の有無・補助療法の有無）
- 暮らしの状況：就労状況の変化，子どもへの病名伝達，夫婦関係全体の満足度，夫との人間関係の変化，夫との性的関係の変化
- 心身の状況：心身の健康度，抑うつ度，病気によるストレスへの対処の仕方，病気体験による精神的な成長など

#### <夫>

- 属性：年齢，妻の診断後経過期間，最終学歴，結婚後経過期間，子どもの有無，信仰の有無
- 妻の臨床的背景：診断後経過期間，術式，再建術の有無，補助療法の有無
- 暮らしの状況：子どもへの病名伝達，夫婦関係全体の満足度，妻との人間関係の変化，妻との性的関係の変化，妻の病気と関連した体調の変化
- 心身の状況：心身の健康度，抑うつ度，妻の病気体験による精神的な成長など



## 2. 結果

### 2.1 回答者の背景

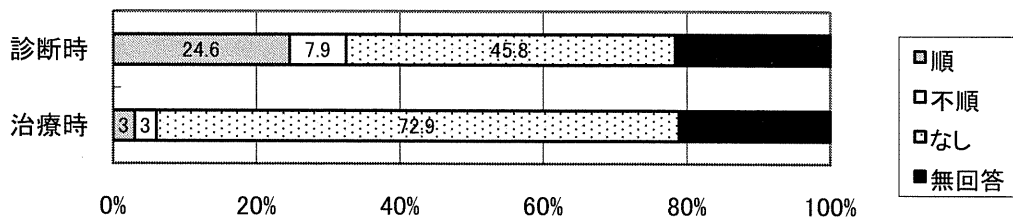
- 回答を依頼した本人：283名
- 本人からの回収数：203（回収率 71.7%）
- 本人のうち夫がいる方：225名
- 夫からの回収数：137（回収率 60.9%）
- ご夫婦の両方から回答をいただいたのは 135 組でした。

#### <本人> N=203

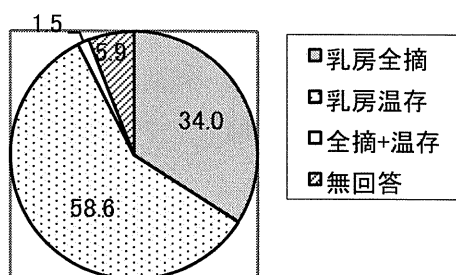
【年齢】 60.3±10.5 歳（31 歳～81 歳）

【診断後経過期間】 60.7±45.2（月）（7 ヶ月～256 ヶ月）

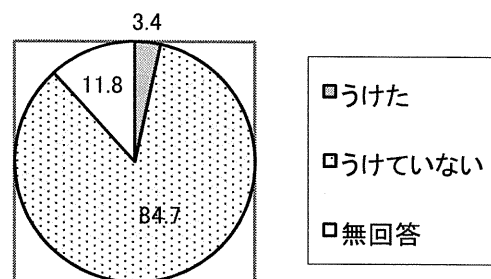
#### 【月経状況】



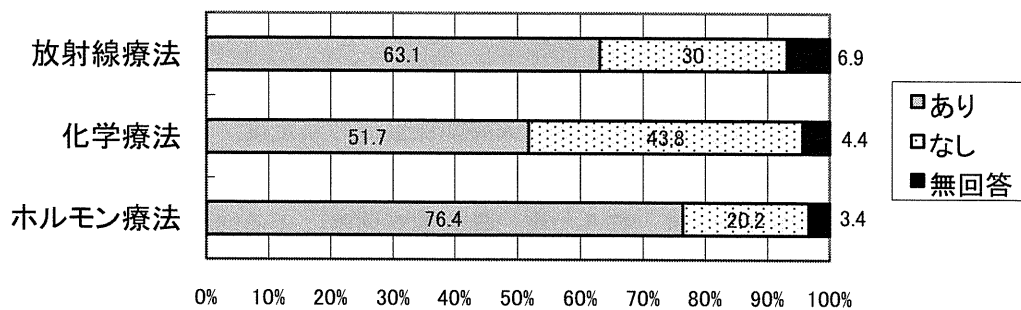
#### 【術式】



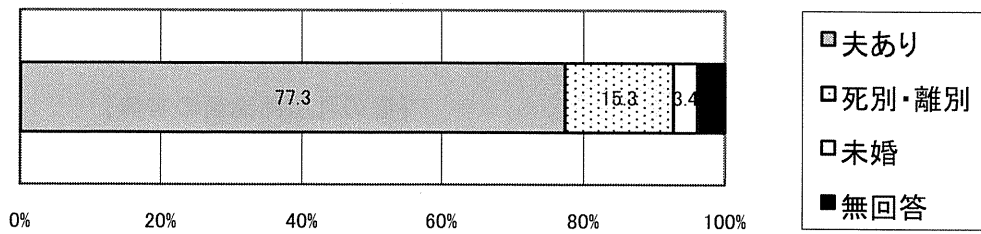
#### 【乳房再建術の有無】



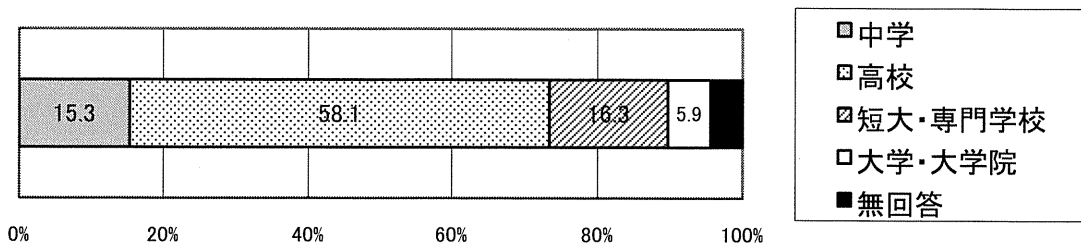
#### 【補助療法】



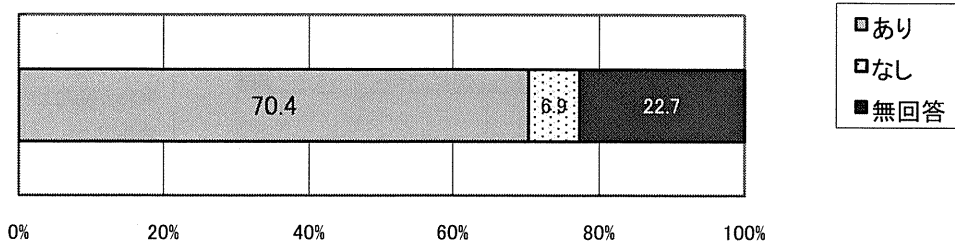
婚姻状況】夫ありの場合、結婚期間 34.6±11.0 年



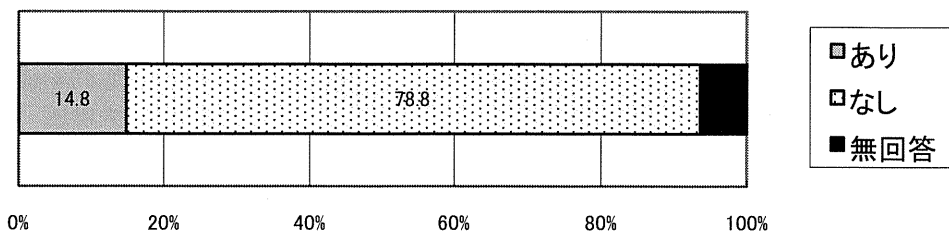
【最終学歴】



【子どもの有無】



【宗教の有無】



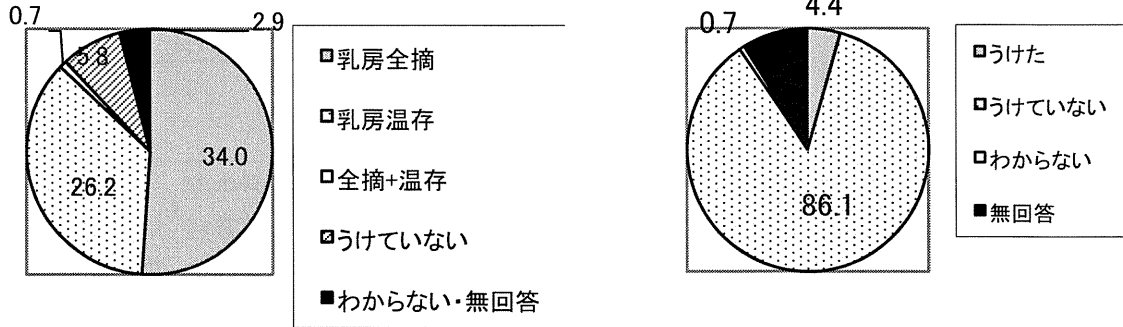
<夫> N=137

【年齢】 62.6±10.5 歳 (31 歳～85 歳)

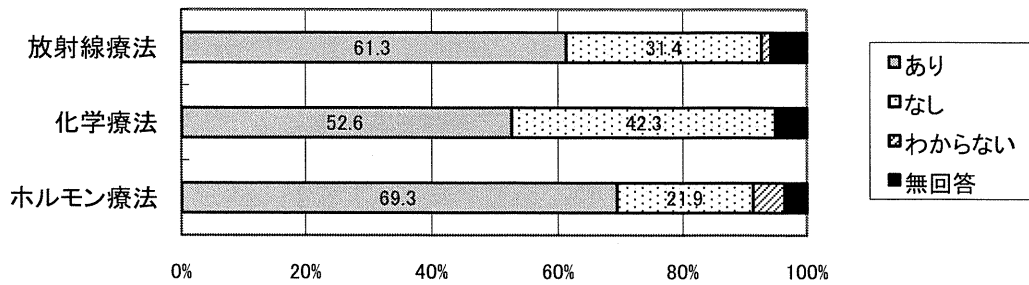
【診断後経過期間】 61.3±45.8 (ヶ月) (最短 7 ヶ月～最長 256 ヶ月)

【妻の術式】

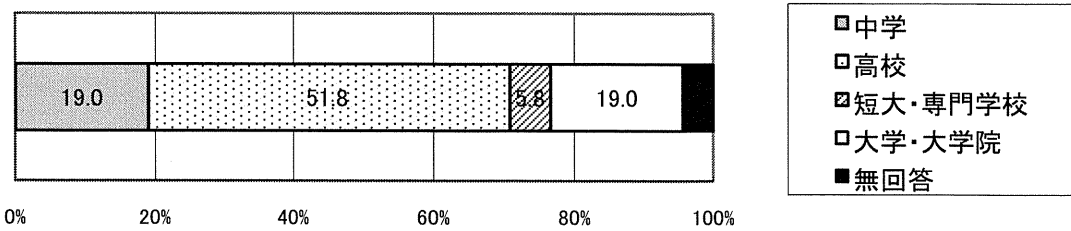
【妻の乳房再建術の有無】



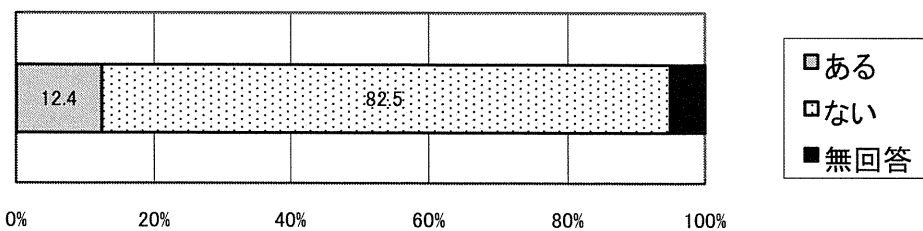
【補助療法】



【最終学歴】



【宗教の有無】 ある 17, (12.4%) ない 113 (82.5%), 無回答 7 (5.1%)



## 2.2 心身の健康度

ご本人と夫の両方に、現在の心身の健康度について SF8 という尺度を用いて伺いました。「過去 1 カ月間に、いつもの仕事をするのが、身体的理由でどのくらい妨げられましたか」「過去 1 カ月間に、心理的な問題に、どのくらい悩まされましたか」などの 8 項目について、5~6 段階で質問し、身体面と心理面それぞれの総合得点を算出しました。50 点で日本人標準値と同等、50 点未満だとやや悪い、50 点以上ならやや良いと判定されます。

<本人>

身体面総合得点 48.9±6.3 点

精神面総合得点 49.0±5.9 点

<夫>

身体面総合得点 49.5±5.7 点

精神面総合得点 48.6±6.3 点

- ★ 本人と夫の健康度は、日本人標準値と比較してほとんど遜色がありませんでした。
- ★ 本人の身体面総合得点が増えるほど精神面総合得点も増え、からだと心の調子は互いに関連していました。
- ★ 本人の身体面総合得点が増えると夫の精神面総合得点が増え、本人のからだの調子と夫の心の状態が関連していました。
- ★ 本人の精神面総合得点が増えると夫の精神面総合得点が増え、本人と夫の心の状態も関連していました。

### 2.3 病気体験による精神的な成長

自分や家族の大病といった出来事がきっかけになり、周囲の人々との関係や人生への態度が、かえって前向きに変化する場合もあることが報告されています。PTGS という尺度を用い、本人と夫の両方に、病気とわかったあとの変化に関して伺いました。「自分の命の大切さを痛感した」「一日一日をより大切にできるようになった」などの 21 項目について「まったく経験しなかった (0 点)」～「かなり強く経験した (5 点)」の 6 段階で伺い、総合点を算出しました。

また、この 21 項目は、①他者との関係、②新たな可能性、③人間としての強さ、④精神的変容および人生に対する感謝 の 4 つの分野に大別することができます。各分野の得点も示します。高得点ほど、病気体験から意味を見出していることを表します。

#### <本人>

総得点 (0-105 点)	61.4±19.6 点
他者との関係 (6-36 点)	18.3±6.1 点
新たな可能性 (4-24 点)	11.1±4.7 点
人間としての強さ (4-24 点)	11.7±4.2 点
精神的変容および人生に対する感謝 (4-24 点)	11.7±4.0 点

#### <夫>

総得点 (0-105 点)	53.3±23.7 点
他者との関係 (6-36 点)	15.4±7.1 点
新たな可能性 (4-24 点)	10.4±5.0 点
人間としての強さ (4-24 点)	9.7±4.6 点
精神的変容および人生に対する感謝 (4-24 点)	9.8±4.6 点

★ 本人と夫の点数は関連しており、一方の精神的成長得点が高い場合は他方も高い傾向がみられました。

## 2.4 抑うつ気分

ご本人と夫の両方に、現在の抑うつ気分の程度について、CES-D という尺度を用いて伺いました。この1週間のからだや心の状態について、「物事に集中できない」「一人ぼっちでさびしい」などの20項目について「ない」～「5日以上」の4段階で質問し、総合点を算出しました。総合点が16点以上の場合は抑うつ傾向にあることを示します。

- <本人> 20項目すべてに回答した人 158名  
 (0-60点) 11.6±7.9点 16点以上の方 24.1%
- <夫> 20項目すべてに回答した人 126名  
 (0-60点) 11.8±6.5点 16点以上の方 24.6%

- ★ 本人と夫の点数は関連しており、一方の抑うつ気分が強いと他方も強い傾向がみられました。
- ★ 本人と夫両方の、4人に一人近くが抑うつ傾向にありました。

## 2.5 夫婦の関係について

### 夫婦関係全般の満足度

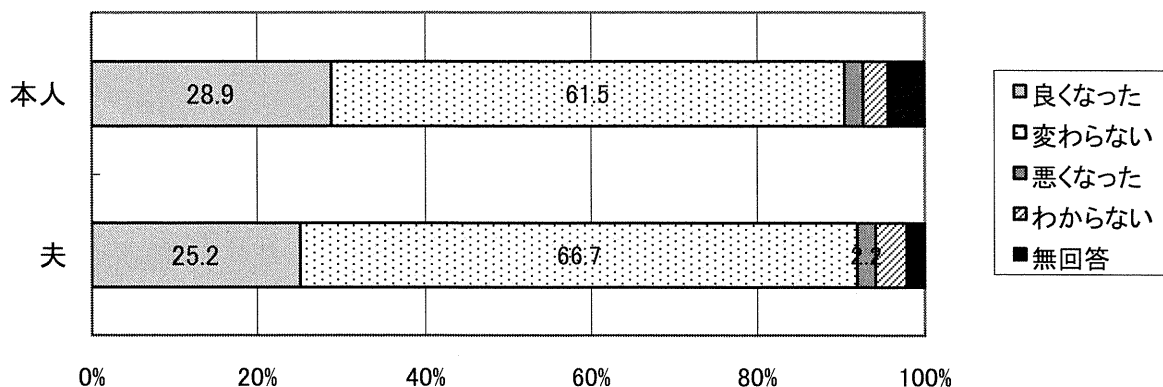
夫婦関係の満足度について、夫婦関係満足度尺度を用いて伺いました。「私たちは、カップルとして申し分のない生活を送っている」といった6項目について、「ほとんどあてはまらない(1点)」～「かなりあてはまる(4点)」の4段階で質問し、合計点を算出しました。高得点ほど、カップル関係に満足していることを表します。

- <本人> (6-24点) 18.3±4.6点  
 <配偶者> (6-24点) 19.3±4.3点

- ★ 本人と夫の両方から返信があったご夫婦の場合、両者の点数は関連しており、一方の夫婦関係満足度が高いと他方も高い傾向がみられました。

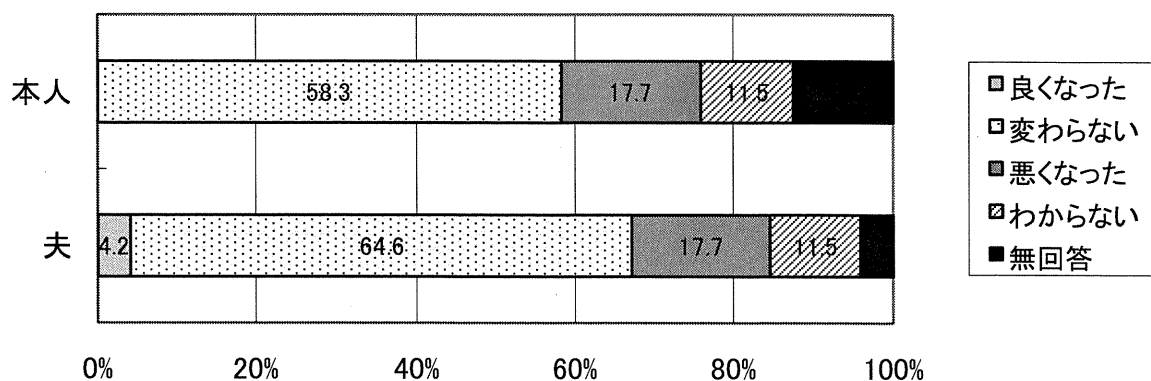
### 診断前後の比較:夫婦の人間関係全般

本人と夫の両方から返信があった 135 組のご夫婦の結果を示します。診断の前と後で夫婦の人間関係全体に変化があったかどうか伺ったところ、本人・夫ともに 9 割以上が「良くなった」または「変わらない」と回答していました。本人と夫の評価は似た傾向を示しました。



### 診断前後の比較:性生活

135 組のうち診断前に性生活があった 96 組の結果を示します。診断の前と後で相手との性生活に変化があったかどうか伺ったところ、「良くなった」または「変わらない」と回答したのは夫の 68.8%、本人の 58.3%にとどまり、人間関係全般よりもやや厳しい評価でした。



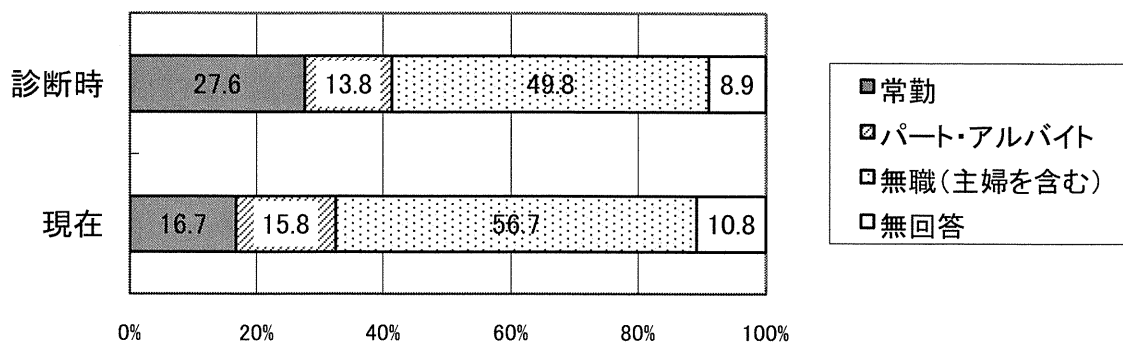
## 2.6 子どもへの病気の伝え方

子どもがいると答えた本人 178 名に、子どもに病気を伝えたかどうかについて伺いました。165 名(92.7%)が「病名を伝えた」と回答しているものの、伝えていない方も 8 名(4.5%)いました。その他 2 名、無回答 3 名でした。

## 2.7 就労の状況

### 就労の変化

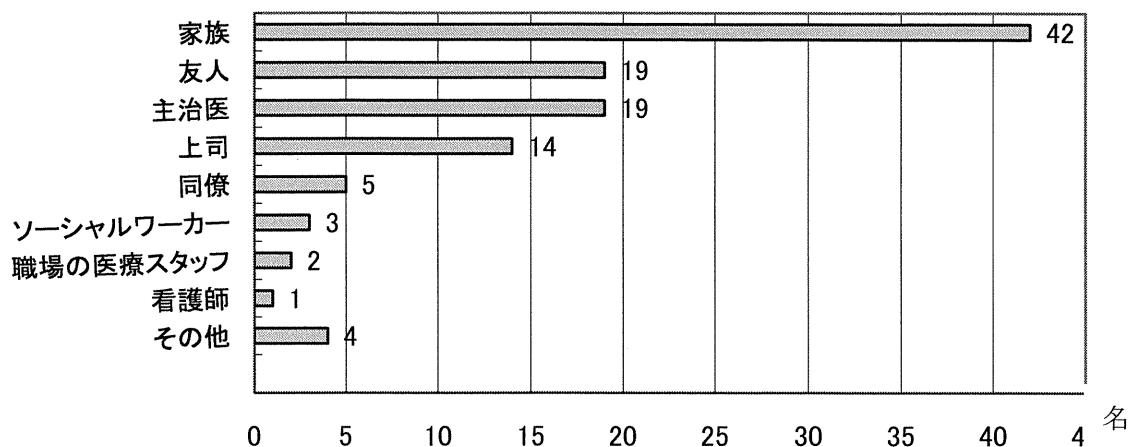
ご本人に、就労状況について伺いました。診断時には41.4%の方が常勤やパートとして働いており、平均勤務年数は16.2年でした。



現在就労している方は32.5%であり、診断時よりもやや減少していました。現在無職・主婦である115名の方に将来の就労希望を伺ったところ、「働きたいと思う」と答えたのは17名(14.8%)にとどまりました。

### 就労の悩みの相談有無と相談相手

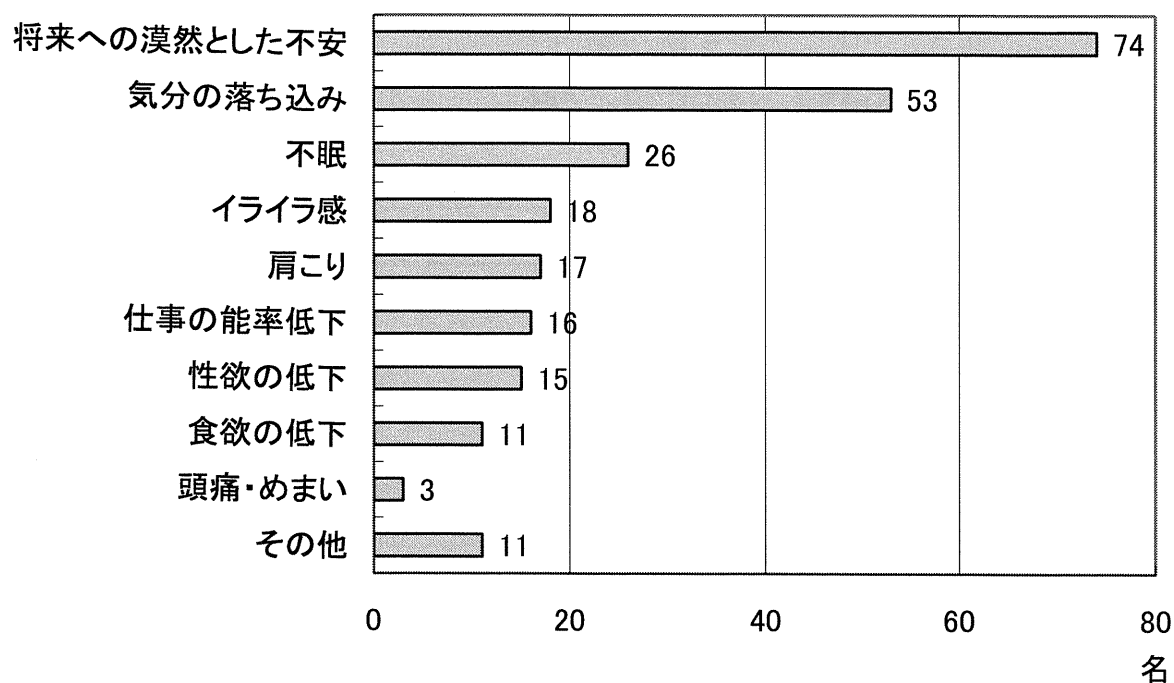
203名のご本人全員に、診断後、就労について誰かに相談したかどうか伺ったところ、「相談したことがある」と回答したのは61名(全体の30.0%)のみでした。相談相手でもっとも多かったのは家族で、主治医、友人が続きました。



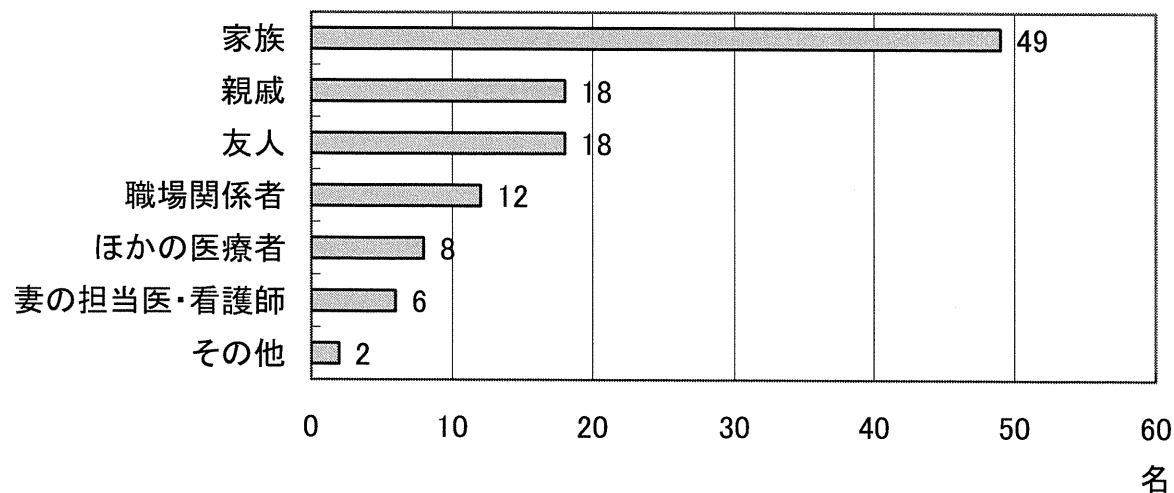


## 2.8 夫の体調変化

137名の夫の全員に、妻の病気と関連したご自身の体調変化について伺いました。121名(88.3%)の夫が何らかの体調変化を経験しており、特に多かったのは「将来への漠然とした不安」74名(54.0%)、「気分の落ち込み」53名(38.7%)でした。



上記のような自分の体調変化について誰かに相談した配偶者は、体調変化があった121名中75名(62.0%)にとどまっています。相談相手としてもっとも多いのは家族で、親戚、友人が続きました。



### 3. 結果のまとめ

- 本人の平均年齢は約 60 歳、夫の平均年齢は約 63 歳、診断後経過期間は約 5 年です。
- 本人、夫ともに、その心身の健康度 (FS8) は同年代の日本人標準値と比較してほとんど遜色ありませんでした。本人のからだと心の健康度は関連していました。また、夫の心の健康度は、本人の心身両面の健康度と関連していました。
- 夫婦の心の調子が関連していることは抑うつ気分 (CES-D) でも同様であり、夫婦の一方の抑うつ気分が強いと他方も強い傾向がみられました。
- 本人と夫の両方において、4 人に一人近くが抑うつ傾向にありました。
- 乳がん体験により、本人と夫の双方に何らかの前向きな生き方 (PTSG) の変化が生じていました。夫婦の得点は関連しており、一方の変化が強い場合は他方も強い傾向がみられました。
- 夫婦関係満足度についても本人と夫の得点は関連しており、一方の満足度が高ければ他方も高い傾向がみられました。
- 夫婦の人間関係を診断前後で比較すると、本人・夫ともに 9 割以上が「良くなった」または「変わらない」と回答していました。
- 夫婦の性生活を診断前後で比較すると、「良くなった」「変わらない」と回答したのは夫 7 割弱、本人 6 割弱にとどまり、人間関係全体よりもやや厳しい評価でした。
- 子どもがいる場合、大多数の方が子どもに病名を伝えていました。
- 現在常勤かパートなどで働いている方は、診断時よりもやや減少していました。就労に関する相談相手は、家族、友人、主治医が上位を占めました。
- 9 割近くの夫が、患者本人の病気と関連して何らかの体調変化を経験していました。しかし、誰かに相談したのは体調変化があった人の約 6 割にとどまり、残りは誰にも相談していませんでした。

#### 4. 今後にむけて

今回の調査では、ご本人のからだと心の健康度が関連しあっていることや、病気に対するご夫婦の反応が似通っていることなどがわかりました。

夫婦関係全般の悪化は見られないものの、性生活や就労状況については、診断前に比べて少なからず変化があることも明らかになりました。また、妻の診断にともなって 9 割近くの夫が体調変化を経験するなど、夫が大きな影響を受けることが改めて浮き彫りになりました。これらの問題について、参考資料や相談窓口の整備も必要です。

この報告書では、調査結果の基本的なところをご報告いたしましたが、今後さらに詳細な分析をすすめてまいります。今後発表される学術論文をご希望の場合は、研究班にご連絡いただければ、お送り申し上げます。

みなさまの体験を、ぜひこれからのケアに生かしていきたいと考えております。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

禁無断転載

---

発行日 平成 23 年 8 月 15 日

【問い合わせ先（ご連絡はできるだけメールか FAX でお願いいたします）】

獨協医科大学公衆衛生学講座（担当：高橋 都）

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880 番地

Tel : 0282-87-2133 Fax : 0282-86-2935

E-mail : miyakot@dokkyomed.ac.jp